

「高低差」地形ウォーク第8回

清盛の夢の跡、明治の土木遺産を巡る

兵庫

2023年5月18日

<参加メンバー> 7人(男4人、女性3人)

<天候> ☀️ 🌧️

<コースタイム>

高速神戸駅 9:45~9:45 湊川神社 10:20~10:43 荒田八幡神社~11:15 雪見御所跡~天王温泉跡~11:35 湊山温泉~11:55 切通し~12:05 烏原貯水池(昼食) 13:00~13:35 夢野八幡~13:50 氷室神社~14:30 湊川隧道~15:10 湊川公園~新開地駅 6H 約10Km

平清盛の福原遷都はわずか半年で夢と潰えたが、清盛が作った神社や痕跡はいまでも遺っており、福原京にあった清盛の邸宅跡や温泉、神社などを巡り、続いて明治の大土木事業である烏原立ヶ畑堰堤と湊川の付け替え工事のため作られた湊川隧道を見学し、天井川であった旧湊川の堤防で今も残っている6mの段差を探した。例によって地形図・コンパスと等高度線図で地形の凹凸や段差を確認しながらのウォーキングでした。

二日後に個人で湊川隧道コンサートに行ったのでその写真も追加しました。(Gi)



高速神戸駅を出発



駅を出て目の前が湊川神社



参道両側はクスノキの緑が鮮やか



宮司さんから神社の由緒を伺う



荒田八幡神社



安徳天皇行在所址の碑あり



石井川(左)と天王谷川(右)の合流点



天王谷川の堤防を行く、その先に→



→平清盛の邸宅跡がある

雪見御所 (ゆきみのごしよ)
 平安時代末期、平家一門が日末貞昌の港である大輪泊を襲撃する福原の地を領有し、ここに多くの邸宅を構えた。治承十一年(一一八〇年)政權の強化を図り、平清盛が孫の安徳天皇を奉じて都を遷すはかたがた福原を遷都した。しかし都遷りは中途で頓挫、半年で平安京に還都したため実態としての都は完成しなかった。
 「平家物語」などには平清盛が福原の地にいくつかの邸宅を持っていたことが伝わる。そのひとつが「雪見御所」で、その名を伝える雪見御所に存在した可能性が高い。ただし町名も同様に古く「雪見御所」の範囲は現在の湊山町南半が大半を占める。西が石井川、東および北は天王川の西のほとりと北山、そして西へと延びる古道により面される範囲になる。南限は湊山小学校の敷地を北東隅から南西隅に横切る方向にのび、その南は「川原」という名になる。この範囲には一町(約一九メートル)四方の屋敷地が収まる。当時の貴族の邸宅は広い屋敷地の北西隅に建てられるのが一般的で、南に庭園が広がる。したがって雪見御所の屋敷地が存在するのは湊山小学校の敷地よりも北側と推定される。一九八六年に湊山小学校の校舎建設に先立ち行われた発掘調査(雪見御所遺跡第一次発掘調査)で確認された石垣のひとはこの南の芋境に一致する。これは雪見御所の南を流す石垣、またはそれを踏襲する芋境の石垣である可能性があると考えられる。
 雪見御所の北に安徳天皇が「福原遷都」の半年を過ごした「一本道」(「平家物語」のあしひた)、「一本道」の北に「雪見御所」の邸宅があった。雪見御所が当時の貴族の邸宅の中心地であったことは、雪見御所町の東にある上社園の範囲で平安時代末期の貴族の邸宅である「雪見御所」の存在が確認されている。正統派の発掘調査の結果から、この地に「雪見御所」の邸宅を中心とする邸宅がいくつもあったと推定される。この邸宅の中心地は「雪見御所」という名で示すことが示すところである。
 本拠があった「フィールド」(「雪見御所」といふこと)である。
 この「雪見御所跡」の石碑は、明治三十九年に湊山小学校の校舎作り掘り出された。往時の御所の跡地に使用されていたと考えられる石に、明治四十一年に湊山小学校三校長長藤三郎氏が、生田村神宮田所平秋氏の揮毫を得て、設置したものである。

清盛の邸宅は雪見御所と呼ばれた



今は石碑だけ。あとは想像するのみ



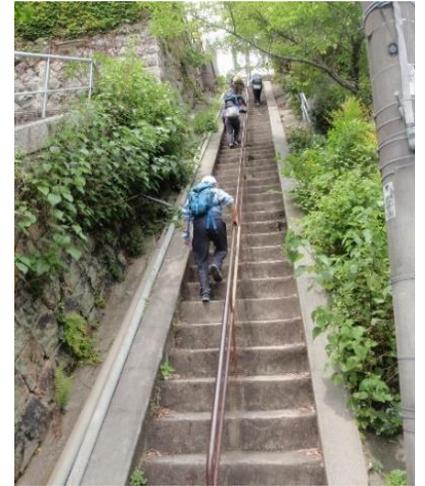
清盛ゆかりの湊山温泉、天王谷川沿いにある



入口はレトロな感じ



石井川右岸、階急峻な崖に住宅が密集、○の段を上る



階段で崖の上へ。傾斜は45°近い



岩塊を人力で切り崩して作った切通し



人が振った鑿の跡が生々しく残る



烏原立ヶ畑堰堤。明治38年竣工



烏原貯水池、神戸市民の水がめ



木陰で昼食。風がさわやか。



新緑が鮮やか、静かな湖畔。



市街地へ下る



夢野神社、福原京を見下ろす高台にある



氷室神社



氷室は森の中にある



氷室の入口。冬に氷を入れ夏取り出した



熊野神社、地元では権現さんと呼ばれる



熊野神社社殿



湊川隧道上流側



湊川隧道への入口。今日は閉鎖。



旧湊川を埋めて作った湊川公園



公園の木陰で将棋に興じる、昔と変わらず。



公園に建つ楠木正成像



旧湊川の堤防(石垣高さ6m)の上に建つ住宅
かつてはこの上を旧湊川が流れていた。



湊川隧道下流側
この写真以降は二日後に撮影したものです



アーチが美しい、扁額は「天長地久」
「天地は永遠に変わらぬ存在である」の意



隧道内でのコンサート、ギターとベースのDUO
音の響きが素晴らしかった。月一度開催。



隧道は天井と側面はレンガ、底は石



古湊川、旧湊川、新湊川変遷の説明図

